

平成25年度事業報告書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

学校法人 上宮学園

I 法人の概要

1. 建学の精神

本学園の建学の精神は法然上人の理想を実現することであり、したがってその指導原理は上人の仏教精神にあることは言を俟たない。学園に関係するものは当然その本源を尋ねてひとえに法然上人に依るべきで、本学園が法然上人を学校祖と仰ぐゆえんである。学園の歴史はわずか 120 年であるが、その 120 年に至るまでの歴史は遥かに長いのである。

法然上人の理想とするところは校歌『月影』にこめられている。

「月影の いたらぬ里は なけれども 眺むる人の 心にぞ 澄む」

これは校祖法然上人の御作で、仏様の慈愛について述べておられるものである。仏の慈愛はさながら月光に似て、人の世のすみずみまでを照らす。しかしながら、月明かりを良いものだと感じ取ることのできる人にだけ月光の良さがわかるように、ああこれが仏の慈愛なのだ、と感じ取ることのできる人にだけ、慈悲の心は通じる。仏恩とはそのようなもの、と説いておられる。本学園ではこの月影の歌を校歌にしており、卒業生は校名一つないこの歌を校歌としている母校に、限りない母校愛と誇りを感じ巢立つのである。

この精神を具現化するために定められたものが、校訓であり、学順である。

校訓「正思明行」～正しく考え、明るく行動する～

何気ない言葉のようですが、邪悪なことを考えていて、立派なことがやれるわけがない。小さなことにくよくよしていて、大事業が達成できるわけがない。要は心のもちかた。他者が見て、この人にはついて行けると思われるような人物は、いつも考えていることが清く正しく、その言動もおのずと清明で、正々堂々としているものです。生徒諸君にそういう立派な人物になれという校祖の思いが、この四文字に込められている。

また上宮には昔から「学順」と呼ぶ教訓が存在する。

「一に掃除、二に勤行、三に学問」。この「掃除」はしばしば誤解されるのであるが、仏道ではもっと哲学的な意味をもち、俗世を浄土のごとく掃き清め、もって俗念を断つ。『往生要集』にもある、穢土を厭い浄土を求める、その心がけが第一で、つぎに己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずから身に備わり、その真価を発揮するという意味です。

以上のことはいずれも仏の叡智に根ざすものである。現代のようなコンピュータ万能の時代でも、いや、むしろ、このようなブラック・ボックスの伴うテクノロジーが人智を凌駕する時代に生きるからこそ、この叡智は大事なのである。いたずらに俗世の成功を求めず、人間ほんらいの生き方と「知の真価」を求める。上宮学園では法然上人のこの人道と仏の慈愛を多くの若者に分け与えて、120年の伝統を経てもなお脈々と受け継がれている。

2. 法人の沿革

上宮高等学校は、明治 23 年（1890）浄土宗を母胎として創立された。以来 120 年以上の長い歴史を刻み、幾多の卒業生を送り出してきた。大阪で最も古い学校のひとつとして、永い

歴史の中で培われてきた伝統を大切に、きめの細かい教育を推進している。

- 明治 23 年 (1890 年) 大阪大教会支校を生玉大宝寺に開く
- 明治 34 年 (1901 年) 学制変更により修業年限 4 年を 5 年に変更
- 明治 39 年 (1906 年) 中学校と同等の認定
- 明治 45 年 (1912 年) 財団法人上宮中学校設立許可
- 昭和 4 年 (1929 年) 鉄筋本館竣工
- 昭和 10 年 (1935 年) 定員 1250 名認可 鉄筋新校舎の建設案成る
- 昭和 14 年 (1939 年) 新校舎 (現 2・3・4 号館) 竣工
- 昭和 22 年 (1947 年) 新制上宮中学校発足
- 昭和 23 年 (1948 年) 新制上宮高等学校発足
- 昭和 26 年 (1951 年) 学校法人上宮学園へ組織変更認可
- 昭和 36 年 (1961 年) 校祖 750 年遠忌式
- 昭和 38 年 (1963 年) 高等学校志願者 5259 名に達す 5 号館竣工
- 昭和 42 年 (1967 年) 中学校の募集停止 太子町鉄骨校舎着工
- 昭和 44 年 (1969 年) 太子町校舎高 1 授業開始
- 昭和 49 年 (1974 年) 高 2 2 コース制実施
- 昭和 54 年 (1979 年) 太子町鉄筋校舎ならびに合宿所竣工式
- 昭和 56 年 (1981 年) 総合体育館竣工式 90 周年記念式
- 昭和 59 年 (1984 年) 上宮高等学校 6 号館竣工
- 昭和 60 年 (1985 年) 上宮中学校復活開校 (於、太子町)
上宮中学校体育館竣工
太子町学舎体育館竣工
- 昭和 63 年 (1988 年) 上宮高等学校太子町学舎開設
- 平成 1 年 (1989 年) 上宮高等学校太子町学舎校舎竣工
- 平成 2 年 (1990 年) 創立 100 周年記念式典
- 平成 3 年 (1991 年) 上宮高等学校太子町学舎が上宮太子高等学校として独立
- 平成 5 年 (1993 年) 上宮中学校が上宮太子中学校へ変更
上宮中学校開校 (於、天王寺)
上宮高等学校硬式野球部選抜野球大会初優勝
- 平成 22 年 (2010 年) 上宮学園創立 120 周年記念式典
- 平成 23 年 (2011 年) 校祖 800 年大遠忌
上宮中学校・高等学校、上宮太子中学校男女共学化
- 平成 24 年 (2012 年) 上宮太子高等学校男女共学化
- 平成 26 年 (2014 年) 上宮高等学校 3 年 平岡卓
冬季オリンピックスノーボードハーフパイプ銅メダル受賞式典

3. 設置学校（所在地・コース等）

i 上宮高等学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町3番16号
全日制 普通科 パワーコース・英数コース・プレップコース

ii 上宮太子高等学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053
全日制 普通科 3カ年特進コース・3カ年総合進学コース

iii 上宮中学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町3番16号
特進コース・アップコース

iv 上宮太子中学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053
特進コース・総合進学コース

4. 校地・校舎面積

名 称	校地面積 m ²	校舎面積 m ²
上宮中学校・高等学校	47,934	22,906
上宮太子中学校・高等学校	30,338	12,436
合 計	78,272	35,342

5. 入学定員

名 称	学則定員（各3学年合計）
上宮高等学校	2,520
上宮太子高等学校	680
上宮中学校	480
上宮太子中学校	450
合 計	4,130

6. 生徒数・学級数

名 称	学年	生 徒 数	学 級 数
上宮高等学校	1年	731	19
	2年	712	19
	3年	923	20
上宮太子高等学校	1年	221	6
	2年	248	7
	3年	143	5
上宮中学校	1年	105	3
	2年	110	3
	3年	129	4
上宮太子中学校	1年	46	2
	2年	58	2
	3年	60	2
合 計		3,486	92

7. 役員・評議員

i 役員（定員 理事：7名、監事：2名）

理事7名（うち、理事長1名、理事6名）

監事2名

理事長 安井良道 理事 田中裕史（上宮中学校高等学校長）
 齊藤善之（上宮太子中学校高等学校長）
 山田隆章（法人事務局長）
 末吉友一（評議員互選）
 田中信道（浄土宗僧侶）
 鶴野重雄（浄土宗・知恩院責任役員）

監 事 藤波光憲・小笹憲雄

ii 評議員（定員15名）

評議員15名（うち、理事兼任7名）

末吉友一（学識経験者） 神田眞晃（浄土宗僧侶） 川中光教（浄土宗僧侶）
 水谷川源昇（学識経験者） 横倉廉幸（卒業生） 山縣真平（法人職員）
 寺澤久弥（学識経験者） 松井保（法人職員） 原田和成（法人職員）

8. 教職員

教職員数	専任教員	非常勤教員	事務職員	計
上宮高等学校	101	70	16	187
上宮太子高等学校	32	23	6	61
上宮中学校	24	6	1	31
上宮太子中学校	14	7	3	24
合計	171	106	26	303

II 事業の概要

平成25年5月より安井良道理事長・学園長が就任され、学園の再生、発展向上のために「三本の柱」を眼目にして取り組んでいくことになった。一は教育力の向上である。本学園の建学の精神を礎として教育力の向上を目指し将来に向けて有為な人材を育成することである。同時に教職員一丸となって互いの指導力を高めあうことであり、教科担当・担任・生活指導・進路指導・入試対策・或いは部顧問として切磋琢磨して研究工夫を重ね、綿密な連絡と計画を建てて一人ずつの生徒の学力向上のために全力をつくすことである。

二は健全な財政を築くことである。学園は創立120有余年の歴史と伝統を基盤としての経済力の安定である。上宮太子中・高等学校では完了したが、上宮中・高等学校は平成26年耐震診断をうける。本館（1号館）・2・3・4号館は重厚な建物ではあるが、築70年以上過ぎ診断料と共に多大な新築建造費が予想される。そうした中で、教職員には安定、安寧の生活費と戦意喪失なきよう安心感を与えなければならない。三は民主的な運営である。まず生徒が喜んで本学園に入学してよかったという学ぶ喜びに気づかせているか。管理職と教職員の意志の疎通を欠いていないか。職員会議が民主的に運営され、自己啓発の場となっているか。保護者・同窓会・教育後援会等、学園との関係が両立しているか。生徒と担任又は授業担当者や部顧問との関係が円滑かつ信頼や尊敬の念で結ばれ、体罰やいじめについてその温床の絶無を期することが大切であるという基本精神「三本の柱」を通じ学園の事業運営は進められていくことになる。

1. 法人

i 理事会・評議員会 開催日時と議案を記す

① 臨時理事・評議員会

日 時 平成25年4月30日（火） 理 事 会：午後1時
評議員会：午後2時

場 所 理 事 会：上宮中学校高等学校 法人理事室

評議員会：上宮中学校高等学校 北応接室

大阪市天王寺区上宮町3番16号 TEL.06-6771-5701

議 題 第1号議案 藤野芳雄理事長・学園長の辞任について

② 平成 25 年度 第 1 回理事・評議員会

日 時 平成 25 年 5 月 29 日 (水) 理 事 会 : 午後 2 時
評議員会 : 午後 5 時

場 所 理 事 会 : 上宮中学校高等学校 法人理事室
評議員会 : 上宮中学校高等学校 北応接室
大阪市天王寺区上宮町 3 番 1 6 号 TEL. 06-6771-5701

議 題 議案第 1 号 平成 24 年度補正予算 (案) について
議案第 2 号 平成 24 年度決算 (案) について
議案第 3 号 平成 24 年度事業報告について
議案第 4 号 平成 25 年度予算 (案) について
議案第 4 号 その他について

③ 平成 25 年度 第 2 回理事・評議員会

日 時 平成 25 年 6 月 27 日 (木) 理 事 会 : 午後 5 時
評議員会 : 午後 5 時 30 分

場 所 理 事 会 : 上宮中学校高等学校 法人理事室
評議員会 : 上宮中学校高等学校 北応接室
大阪市天王寺区上宮町 3 番 1 6 号 TEL. 06-6771-5701

議 題 議案第 1 号 任期満了による役員改選について

④ 平成 25 年度 第 3 回理事・評議員会

日 時 理 事 会 : 平成 26 年 1 月 15 日 (水) 午後 2 時
評議員会 : 平成 26 年 1 月 15 日 (水) 午後 2 時 30 分

場 所 理 事 会 : 上宮中学校高等学校 法人理事室
評議員会 : 上宮中学校高等学校 北応接室
大阪市天王寺区上宮町 3 番 1 6 号 TEL. 06-6771-5701

議 題 議案第 1 号 学則変更について
議案第 2 号 監事補充について
議案第 3 号 評議員補充について
議案第 4 号 寄付金募集について

議案第5号 平成25年度中間報告（財務面・教学面）について

⑤ 平成25年度 第4回理事・評議員会

日 時 理 事 会：平成26年3月31日（月） 午前10時

評 議 員 会：平成26年3月31日（月） 午前10時30分

場 所 理 事 会：上宮中学校高等学校 法人理事室

評 議 員 会：上宮中学校高等学校 北応接室

大阪市天王寺区上宮町3番16号 TEL.06-6771-5701

議 題 第1号議案 平成26年度事業計画について

第2号議案 平成26年度予算原案について

第3号議案 上宮中学校高等学校・上宮太子中学校高等学校の近況報告について

2 上宮高等学校

i 執行部関係【上宮中学共】（平成25年度）

校長 田中裕史

中学教務部長 末金和夫

高校教頭 山縣真平

生活指導部長 水谷善仁

中学教頭 殿井鉄夫

進路指導部長 山本直樹

高校教務部長 栗栖有文

入試対策部長 相本秀彦

ii 広報関係

① 学校説明会

入学希望者を対象に9月から12月にかけて、月に一度、計4回の説明会を実施している。参加者数は増えているのだが、説明会のあり方について考えなければならない時期に来ている。問題点もいくつか考えられるので、次に述べてみる。

まずは説明会の時間の設定である。土曜日の午後3時から5時という時間をできれば2時から4時に実施したい。中途半端な午後3時からの説明会の実施はあくまでもこちらの都合である。また説明内容も1時間が妥当である。他校の説明会と比べれば明らかに長い。配布物に関しては同窓会誌も配布したが、今年度は希望者だけに配布することを考えている。

相談コーナーの担当者はすみやかにブースに着席して対応していただきたい。

ブースがあるにもかかわらず、担当者がいないことがよくある。

② 塾対象説明会

従来は北会場、南会場と同時期に2回の説明会を実施してきたが、ここ数年はセラトン都ホテル大阪で7月第2金曜日に一度だけ実施している。懇親会は実施せず、説明会終了後に個別相談コーナーを設けて対応している。説明会の時間が少し長いという声があり、調整に苦慮している。

③ 私学展

毎年多数の来場者が見込まれる中で、上宮中学校・高等学校のブースを訪れる人数は共学になっ

て増加の一途をたどっている。説明のブースに来て、一通りの話を一人ひとりにしていくのはロスが多いので、昨今は別会場にて上宮の概略を聞いてから、希望者はブースに来てもらうという方式を取っている。比較的スムーズに対応できるようになったと思う。ただ毎年、開催時期が夏のお盆であり、スタッフが揃わないことで常に困っている。他校のスタッフを見てみると20人～30人体制で臨むのが普通になっている。宗門関係の学校において開催時期がお盆であるというのは辛い。

④ 特筆すべき点

高校入試も決して楽観視できない状況である。共学とアクセスと制服とに助けられて集まっているといっても過言ではない。専願者の減少傾向（特にパワー、英数）、大阪府の就学支援が今後どうなるかわからないことを考え、広報のあり方を再度、検討しなければならない。

iii 進路関係

1. 大学等合格率について

平成25年度卒業生は、昨年度の442人から917人と2.07倍に増え、また本校が共学化して初の卒業生でもあった。

学年全体の現役での合格率は85.5%（前年は83.9%）と、昨年を少し上回った。これは英数文系の89.2%（前年77.3%）と特進文系の92.3%（前年72.2%）の高い合格率が押し上げた結果である。

なお、国公立型コース（パワー・英数・特進）の平均合格率は73.0%（前年74.5%）、私立型コース（プレップ・一貫プレップ）は84.9%（前年85.9%）。また、文系・理系別では、文系平均が87.8%（前年82.5%）、理系が67.7%（前年75.6%）と、理系が例年通りやや苦戦している。

2. 大学別合格者数について

①国公立大学合格者数は現浪合わせて前年度の18名から39名と倍増したが、京・阪・神大の合格者が3名増、市大・府大合格者数は5名減で、特に和歌山大学の7名増と、地方国公立大学合格者数の増が顕著であった。

②私立大学合格者は949名（前年458名）と、これも卒業生数比率にリンクして倍増した。

大学別合格者ベストは以下の通りである。

- 1位：近畿大学（93名）
- 2位：摂南大学（64名）
- 3位：桃山学院大学（47名）
- 4位：関西大学（46名）
- 5位：龍谷大学（45名）
- 6位：追手門学院大学（38名）
- 7位：大阪経済大学（37名）
- 8位：大阪工業大学（35名）
- 9位：佛教大学（25名）

10位：大阪電気通信大学（21名） 以下略

3. その他進路状況について

①連携大学は現在16大学であり、前年度の連携大学全体の指定校推薦枠は238枠であった。

②上記連携大学を含む、すべての大学の連携・指定校制推薦枠にエントリーできたプレップ・一貫プレップコースの生徒数は204名で、前年度の140名から64名もの増となり、連携・指定校推薦枠での合格者が大きく増加した。ただし同コース生徒の在籍数に対する割合で見ると29.8%（前年度47.7%）となり、過去最低水準となった。

③また、短期大学の合格者が25名（前年度7名）と3.6倍、さらに専門学校の合格者が65名（前年度18名）と5.3倍となったが、ここに共学化における顕著な変化が見て取れる。

4. 今後の進路指導部方針について

①大学を中心とした進学実績の向上を目論み、具体的な目標設定をしたうえで、実効性のある具体的施策の立案と実施が急務であると考えます。

②進路状況・成績状況に関して、各コース・教職員間の情報共有化を促進しなければならない。さらに、成績データ等の分析を経て問題点を抽出し、それを解消するために必要な具体的施策の検討を進めるべきであると考えます。

iv 入試関係

入試結果については広報関係④のところでも述べたが、生徒募集定員についてそれを上回る募集ができていたことは上向いている点であるが、「わざわざ記入する」という記載があるので述べているだけである。

高校入試も決して安穩としていられない状況である。共学とアクセスと制服に助けられて集まっているといっても過言ではない。大阪府の就学支援が今後どうなるかわからないことを考えると2年先までにパワー、英数コース、プレップコースの再編をもう一度やり直さなければならないのかもしれない。シラバス等がホームページにアップされ、各コースの現役合格実績も含めて公開しなければならないことは必至であり、そのためにも学校側はシラバスの内容（これで希望の大学に合格できるのか）を詳細にチェックし、広報のあり方を再度、検討しなければならない。

さらに特待生制度のあり方を担当者の話を聞いていただき、再度検討していただきたい。上宮とほぼ同じレベルの近大付属高校のやり方とは歴然である。真似をする必要はないが、水をあげられるような制度になっている。

v 施設整備関係

設備の充実に向けた対応、特に南グラウンド西側防球ネットの改修工事・南側ネットの嵩上げ工事及び7号館を中心にエントランスのマット、シューズボックス、製氷機等の設置を行い、

北側外壁の一部撤去し、生徒通用門を新たに設置し通学時の道路の混雑解消と安全を確保。

- ・女子トイレの増設（北東門駐輪場横）
- ・福祉施設整備計画に基づく 1、2 号館 2 階の段差解消（スロープの設置）

vi 教務関係

① コースの再編

○教員人材の分散を防ぐとともに教育力を集中させ、教育効果を上げる目的で行った。

- 平成 26 年度より、中学標準コースをUPコースとあらため、高校進学時には、特進、六カ年プレップ以外に、英数コースへの道も
- 高校 3 年次に特進コースとパワーコースの融合により国公立 I 型に
- 高校 3 年次に英数コースは国公立 II 型に

② 学校計画の策定

○学校方針を明確化することで、学校評価と個人目標を結びつけ、個人の力を組織の力へと変える。

③ 教育プランの策定

○教科の教育プランとコースの教育プランを策定することで、教員の生徒指導上における意思の疎通を図る。

④ シラバスの策定

○教科のシラバスとコースのシラバスを策定することで、生徒・保護者および外部に対し、上宮中学・高等学校の教育内容の公開と広報を行う。

⑤ いじめ防止基本方針の作成

平成 26 年 3 月 20 日 公布 4 月 1 日 施行
(※②, ④, ⑤はホームページに記載する予定)

⑥ 語学研修の充実

昨年度までの状況は、高 1・2 年対象の夏休みのカナダ語学研修とイギリス語学研修の 2 種類がほぼ同時期に企画されていた。カナダ語学研修は 3 コースに分かれるが、1～2 名程度がレジデンス（寮）での宿泊、その他大半の 20 名程度がホームステイで毎日教室に通学するもので、定員をオーバーするほど好評である。また、学校ではオープンといわれる各国の生徒と一緒に教室での学習である。それに対してイギリス語学研修は全員レジデンス（寮）で、部屋も教室もオープンで様々な国の生徒と共同生活を行うもので、実際の参加者には好評であるが、希望者が少なく、昨年は中止となり、今年度からは募集停止となった。

イギリス語学研修に替わって、今年度新たに企画したのが、フィリピンのセブ島の日系語学学校に滞在する英語研修である。英語の学習とアクティビティや自由時間といったこれまでの語学研修と異なり、原則外出禁止で午前中はマンツーマンでの英語特訓という特徴があり、英語力の強化に特化した研修である。すでに希望者が集まり実施が決定している。

春休みには、中 3 と高 1 対象にオーストラリア語学研修を実施している。全員がホームステイで滞在し、英語学習は本校生徒のみのクローズで行われている。アクティビティが充実しておりオーストラリアの大自然とふれあうプログラムで英語環境に親しむことを目的としている。

vii 課外活動関係

- ・2014 ソチオリンピック 高3 平岡 卓がスノーボードハーフパイプにて銅メダル受賞
- ・卓球部 インターハイベスト8
- ・剣道部 インターハイ・選抜大会 出場

3. 上宮太子高等学校

i 執行部関係

校 長	齊藤善之	中学教務部長	甲斐龍二
高校教頭	寺澤久弥	生活指導部長	佐々木裕司
中学教頭	甲斐龍二	進路指導部長	松井清悟
高校教務部長	淵 昭嘉	入試対策部長	木戸俊治

ii 広報関係

① 学校説明会

第1回入試説明会	10/5	参加者数	68組
オープンキャンパス	11/16	参加者数	250組
第2回入試説明会	12/7	参加者数	224組
第3回入試説明会	12/21	参加者数	76組

(個別相談会)

② 塾対象説明会 9/18、19 参加者数 150 塾 170 名

③ 私学展 (OMMビル) 8/10、11 参加者数 157 名

④ 特筆すべき点

学校での説明会では、多くの受験生・保護者の方に参加頂いた。第3回は「個別相談会」の形式をとったので、やや参加者数を減らしたが、受験生・保護者の本校への熱望ぶりを肌で感じる事ができた。

私学展は入試対策部の他、入試委員の先生方の助けもあり、スムーズに流れたと思う。一人辺りの相談時間が約15分と長かったが、この丁寧さが本校の最も大事にしている点であるので良かったと思う。

iii 進路関係

【大学合格者数】

卒業生数が30名程減少したにもかかわらず、全体の合格者数には変化がなかった。

今年度のべ273名(卒業生数141名)、昨年度のべ274名(卒業生数168名)

○国公立大学

昨年度入試と比較して、現役生と過年度生を合わせた合格者数に大きな変化はないが、少し過年度生に助けられた感は否めない。

国公立大学合格者数：今年度8名(現役4名・過年度4名)、昨年度9名(現役6名・過年度3名)

○私立大学（関西 8 私大）

昨年度入試と比較して、関関同立の合格者数は若干減少し、産近甲龍の合格者数は増加した。その結果、関西 8 私大合わせた合格者数には大きな変化はない。

また、今春の卒業生の特徴として、自宅から通学できる比較的近い大学を受験する傾向が強く出た。

関西 8 私大合格者数

今年度 79 名（関西 21 名・関学 1 名・同志社 1 名・近畿 37 名・龍谷 19 名）

昨年度 82 名（関西 18 名・関学 10 名・同志社 14 名・立命 4 名・京産 1 名・近畿 27 名・龍谷 8 名）

※昨年度と比較して、連携・指定校推薦入試受験者数 12 名（関関同立 9 名・産近甲龍 3 名）減少。

昨年度は関関同立・産近甲龍合わせて、連携・指定校推薦入試受験者数 31 名

○23 期生の進学状況（卒業生数 141 名）

4 年制（6 年制）大学進学者数…113 名 短期大学・短期大学部進学者数…4 名

専門学校進学者数…12 名 就職者数…1 名 進路未決定…11 名

（内訳：総合進学文系 3 名、総合進学理系 3 名、特進文系 3 名、特進理系 2 名）

現役進学率 92.1%（昨年度 89.1%）、現役合格率 93.6%（昨年度 93.6%）

連携・指定校推薦入試受験者数 39 名（総合進学コース在籍者の 32.5%）

総合進学コース在籍生徒のうち、

4 名（実数）が関西大学に一般入試で合格。

3 名（実数）が近畿大学に公募制推薦・一般入試で合格。

5 名（実数）が龍谷大学に公募制推薦・一般入試で合格。

【進路指導方針】

入学当初より、進路指導 LHR（年間 8 回実施）を通して、大学・学部・学科について調べ、できるだけ早い時期に目標設定を行うように指導している。総合進学コースの生徒にも、公募制推薦入試や一般入試を中心に大学進学を目指させるように指導する。

生徒の将来とともに、学校の将来を見据えた取り組みを今後も継続して行っていきたい。

○次年度の取り組む内容（重点目標）

- ・安易な考えによる連携・指定校推薦入試からの脱却（総合進学全体の 30%未滿）
- ・大学入試センター試験に対する意識の向上（受験者数の増加）
- ・模擬試験の有効活用（偏差値 2 ポイントアップ）
- ・家庭学習の充実（補習・講習の充実・家庭学習時間の増加）
- ・女子生徒の希望進路を見据えたカリキュラムについて検討
- ・学力のともなった理系選択者数の増加
- ・6 ヶ年教育を活かした大学情報の発信

「共学」として募集を開始してから、受験者数も大幅に増えた点は予想を遥かに越えていた。入試結果については、理科の平均点がやや低かったこと以外は教科が想定した平均点であったと考えられる。

v 施設整備関係

生徒数の増加に対応するための教室整備を主体とした改修工事、及び校舎、設備の維持管理のための補修を行った。

- ・旧美術教室→普通教室2教室への改修
- ・中学校高等学校駐輪場の拡張工事
- ・高等学校地下通路防水補修工事

vi 教務関係

① 学校評価

各部署の実施計画と授業アンケートを中心に学校評価を行った。各部署については、4月までに今年度の年間計画と取り組む内容を、10月末までに中間評価、3月末までに年度末評価を学校評価委員会に提出し、その都度校長より指導助言を頂く形で実施した。授業アンケートについては、7月に第1回目を実施し、その結果を各教員がリフレクションペーパーにまとめ、11月に実施した2回目の授業アンケートに反映させるように行った。今年度は、新たに保護者・生徒・教職員アンケートを12月に実施し、今後の改善点を明確にした。平成24年度の学校関係者評価委員会は例年通り6月に実施した。

② 高大連携

○現状について

・関西大学、近畿大学、龍谷大学、帝塚山学院大学の4大学と高大連携協定を締結しており、それぞれの大学から特別推薦入試枠をいただいている。また、近畿大学経済学部にて、数学のリメディアル教育担当教員を1名派遣している。

- ・平成26年4月に、大阪樟蔭女子大学と高大連携協定を締結する予定である。

○今後について

共学化に伴い、いくつかの大学から高大連携協定に関する話を頂戴している。しかし、生徒の希望進路等を確認しつつ、本校としても長期間にわたり、責任のある関係を保つことができる大学に絞って、今後の高大連携を考える。

③ 教職員研修会

昨今の私学教育会を取り巻く厳しい環境のなかで、『建学の精神』をもつ私立学校である上宮太子中学校・高等学校で日々働く教職員が、「意識の改革・レベルの向上」「私学人としての現状認識と共通理解の醸成」「他校の情報収集と対策の研究」等を目的に、ともに研鑽を積み、生徒・学校（組織）に、各自何が出来るかを追究する校内研修会を、ブレイン・アカデミーの協力を得て講師を選定し、3回にわたって実施した。教職員のモチベーション向上と研究心の錬磨に繋げている。

<1 学期・7月 10 日>

・テーマ「社会の構造変化と私学サバイバルの道」

講師：ブレインアカデミー代表 今井 茂氏

<2 学期・12月 12 日>

・テーマ「教師力の基礎基本の資質・能力と、各職層に求められる役割」

講師：追手門学院教職員センターアドバイザー 角本 尚紀氏

<3 学期・3月 7 日>

・テーマ「GIVE の法則（各自が生徒・学校組織にどのように貢献するか）」

講師：淳和学園（岡山龍谷高校）専務理事 中村 好孝氏

④ 特筆すべき行事

・【海外語学研修】

<オーストラリア語学研修> 3月末実施 対象学年 中2～高2 希望制

語学力の向上および多文化理解を目的としたホームステイ型の研修。実習期間は2週間で、生徒満足度95%と非常に高く、その結果、リピート率も高い。（平成25年度 参加者24名）

<イギリス語学研修（ACEプログラム）>7月中旬実施 対象学年 中3～高3 資格あり

国際感覚の習得、プレゼンテーションスキル・チームワークやリーダーシップスキルの育成の向上を目的としたパブリックスクールでの寮滞在型の研修。

参加資格は英検2級1次試験合格以上。クリアした生徒は、学園から一部奨励金を受け、学園・学校の代表としての誇りをもって、研修に参加する。参加前には10時間以上のネイティブ講習会等を実施する。（平成25年度末時点 プログラムチャレンジ 現在10名）

・【聖徳書道展】

平成25年度で第6回の実施となる上宮太子主催の文化活動。伝統文化の発展と、聖徳太子ゆかりの地にある学校として、“以和為貴”の精神を理解・継承し、「和」の心を広め、育成することを目的として開催している。例年、浄土宗、太子町・太子町教育委員会、毎日新聞社の後援をいただいて、小中高生および一般の方々から5000点を越える応募作品を得て、10月13日（日）・14日（月・祝）両日に、上宮太子高等学校を会場として、入賞・入選作品を掲示、他の作品も展示し、第2日には入賞作品の表彰式も行われる。毎年、家族連れなど、多くの来校者を迎える。

vii 課外活動関係

① 課外活動のあり方について

運動部：11、文化部：11、同好会：1（平成26年3月末現在）

中高で7割近くの生徒がクラブに所属し、それぞれのクラブの特色に応じて活動している。

各クラブにおいて目標を達成する上の過程を大切に、礼儀や挨拶などを含めた人間教育に重点を置いた指導をめざし、学校全体の活性化をねらいとしている。

② 新規クラブの発足について

平成24年12月 ダンス同好会発足 平成25年9月 部昇格
平成25年 6月 吹奏楽同好会発足 平成26年1月 部昇格
平成25年 6月 女子バスケットボール同好会発足 平成26年1月 部昇格
平成26年 1月 剣道同好会発足
平成26年 4月 女子サッカー同好会発足

viii その他

生徒会活動の一環として、上宮祭における献血活動に力を入れている。日赤より講師を招き、全生徒に対して献血に関する事前学習を行い、上宮祭当日まで呼びかけや、研究発表を通してたくさんの生徒、来校者に協力していただいている。

4. 上宮中学校

i 広報関係

① 学校説明会

入学希望者を対象に9月から月に一度、11月まで説明会を実施している。説明会のスタイルは高校とほぼ変わらないが、参加者数が多くても100組ほどなので、少しスタイルを変えてもいいかなと考えている。後、体験学習会を一昨年まではプレテストと体験学習という内容で10月中旬に実施してきたが、昨年からは体験学習会を6月、プレテストを11月に実施している。6月に実施しているのは塾に通っている生徒のみならず、私立中学を考えてない保護者・生徒に考えていただくという意味合いもある。興味関心を持った生徒が塾の夏の夏期講習に参加し、11月のプレテストを受験し、最終的に上宮受験という流れができればと思う。

② 塾対象説明会

高校と内容は同じ

③ 私学展

高校と内容は同じ

④ 特筆すべき点

特に留意すべき点は近畿圏にある私立中学校の入試レベルが二極化しており、全体的なレベルが下がっているという事実と受験の可能性のある児童数が激減しているにもかかわらず、中学生の募集をする学校数はさほど変化がないというこの2点である。

上宮中学校の立ち位置はレベル的に言えば特進で偏差値50ほど、アップコースで45と言っているが、偏差値が50あるならば、明星・清風・大阪女学院に十分合格できる(40台でも合格する可能性は高くなっている)。このような状況の中で中学入試をアピールするためには、中学校の内部の教務力や何がしかの柱を新たに構築する必要があると思われる。またそれらを前面に押し出すことが安定した生徒募集につながる。

ii 入試関係

入試結果について、上向いている点は小規模の個人塾からの入学生徒が増えているという点。今までは大手塾を中心に、上宮を受験してもらうようお願いするというスタンスであったが、大手塾に

頼れない以上、これからは「受験生を作る」、上宮を受験する生徒を塾に紹介して、勉強を教えてもらい、上宮への受験を勧めてもらう。入学後もその塾に通うという新たな関係を築いていかなければならない。

また、特待生制度については現状ではまったく機能していないと言える。特待生で入学した生徒をどうこう言っているのではなく、募集のシステムが現実に即していない。担当者の声を聴いていただき、制度の変更あるいは廃止も含めて検討していただきたい。

iii 教務関係

(1) 学校評価

- ①行事の計画と実行・改善
- ②教務係との業務の連携、運営
- ③教員間の情報の共有・連携
- ④中高教務の連携
- ⑤会議や連絡会について
- ⑥教務会の円滑な進行について
- ⑦コース再編の目標の明確化、中学校での取り組みの具体化

(総括)：以上の目標については、概ね当初の予定通り遂行できたが、④についてはまだ十分でないところがある。また、コース再編は一応形を見たが、特長あるコースとするための具体策は今後も継続審議となっている。

(2) 勉強合宿

- ①中1が5月に行う勉強合宿(1泊2日)は平成24年度から実施しているが、小学校から中学に入学して早々に定期考査に向けての学習方法を示すことは意義があり、H26年度も継続予定である。
- ②中1、中2の特進コースが行う夏期勉強合宿(2泊3日)は4年目となった。自学自習が早くから定着することと、特進コースとして将来の進学に自覚を持たせる目的がある。
- ③H25年度の中3勉強合宿(2泊3日)は、学年の意向があり6月に実施した。平常時の合宿は学年掛け持ちの担当者の授業等に影響を及ぼし、難があった。H26年度は2月に実施する予定である。

(3) 中3 修学旅行

9月末に九州方面4泊5日。大分県佐伯・臼杵市における農家民泊、立命館アジア太平洋大学による異文化交流および鹿児島市内における班別自主研修を実施し、好評であった。

(4) スキー実習

中1、中2は全員、中3は希望制として、志賀高原スキー場にて3泊4日で実施。雪質もよく、宿舎でインストラクターの話聞けるなど、生徒の満足度も高かった。

(5) 上記以外の行事

- ①中1が5月に行う冒険教育(日帰り)
- ②中2が6月に行う琵琶湖合宿(1泊2日)
- ③各学年主導の校外学習(1年：司馬遼太郎記念館、上町台地散策、2年：神戸班別自主研修等)

iv 課外活動関係

③ 教職員研修会

上宮太子高等学校と同内容

④ 特筆すべき行事

海外語学研修・聖徳書道展については上宮太子高等学校と同内容

学習強化合宿

中学3年生（特進コース・総合進学コース対象）は、7月下旬（終業式後）に3泊4日の日程で学習強化合宿を実施。この合宿では、普段家庭ではできない学習に取り組みせるとともに、合宿終了後も継続して学習できるよう指導する。

その他

毎日の朝礼時に早朝テストを実施することにより、授業への姿勢を整えさせ、学習習慣の定着をはかる。

外部模試（全国的なレベルでの成績の比較）

特別考査（日頃の勉強の成果や校内での実力を試す）

漢字検定試験（高校卒業までに2級合格を目標としている）

英語検定試験（高校卒業までに2級合格を目標としている）

英検講習（学年卒を越えた級別講習を、通常の補習・講習に加えて、検定日前に集中実施）

授業内小テスト・個別指導・添削指導など教科の特性を加味した指導を実施。

職員室前に質問コーナーを設け、生徒がいつでも質問しやすい環境づくりを設定。

学校行事

普段の教室での“知性を磨く”学習とは違った形で学び、違った環境の中で「感激・感動」を味わって、“感性を磨く”学習としての学校行事。普段、「吸収」した知識を、いかにうまく「発揮」していくかに繋がります。“交流”“体験”“手づくり”を重視した修学旅行・文化祭（本校では上宮祭）・体育大会の他、独自の行事も実施。

祖山参拝（浄土宗の総本山である知恩院へ新入生が入学の報告）

御忌式（校祖法然上人のご命日に当たる毎月25日の第1限に学校長より法話）

校祖誕生会（校祖法然上人のお誕生の日に式典と講話）

正当御忌式（1月25日の校祖法然 上人の祥月命日に式典と講話）

新入生オリエンテーション合宿（1泊2日）

修学旅行（九州方面）

球技大会（生徒会起案で実施）

体育大会（6学年縦割りの色別対抗）

上宮祭（研究発表など多彩なクラス参加の催し物。文化部も大活躍）

夏期学習強化合宿（中1・中2は2泊3日、中3は3泊4日で実施）

芸術鑑賞（音楽、古典芸能等「ホンモノ」の芸術に触れ、感性を磨く）

校外学習（3学年で協力し合いながら登山（二上山・葛城山・金剛山））

iv 課外活動関係

上宮太子高等学校と同内容

v その他

特記事項なし